

寄り道しないなんて、もったいない!

自然と歴史と旬の味覚を満喫しよう。



名勝広浦(水戸八景)

広浦公園



涸沼の湖面に映る中秋の名月は「広浦秋月」として、第9代水戸藩主徳川斉昭公が水戸八景の一つに選びました。広浦からの涸沼の眺めは素晴らしく、晴れた日には鳥居の向こうに筑波山も望むことができます。広浦公園にはバンガローが設置されていますので、キャンプをしながらサイクリングや水遊びなども楽しめます。

【キャンプの予約】電話
029-293-7441



涸沼自然公園

34.5haの広大な敷地を持つ涸沼自然公園。自然の地形をそのまま生かしたユニークな広場が6つあり、季節ごとの花も楽しめて家族連れで楽しむのには最適。特に高台にある「太陽の広場」からは、涸沼が一望でき見晴らしも最高です。また園内には環境の整った200張設営可能なテントサイトや、56区画のオートキャンプサイトもあり、アウトドアライフも満喫できます。
【住所】茨城町中石崎2263
【電話】029-293-7441
【開園時間】午前9時～午後5時
【休園日】4月～10月は無休、11月～3月は月曜(祝休日の場合は翌日)12月28日～1月4日



網掛公園

「親沢の鼻」の対岸にある「弁天の鼻」に作られた公園。涸沼の見晴らしがよく、のんびりと日向ぼっこやピクニックにおすすめの公園。湖岸では釣りも楽しめます。

名勝親沢・親沢公園

松が生い茂る涸沼の景勝地。湖畔に突き出ている「親沢の鼻」と呼ばれる一帯は、県指定の名勝地。「親沢の一つ松」を詠んだ徳川光圀の句碑も残されています。親沢公園にはテントが持ち込めるので、仲間とバーベキューをしながら湖畔でキャンプも楽しめます。
【キャンプの予約】
電話029-293-7441



宝塚古墳(町指定史跡)

宝塚古墳は、県内に十数例しか発見されていない前方後方墳で、全長39.3m、周囲には5～7mの溝が巡っていることも確認されました。昭和60年(1985)の発掘調査でみつかった土器の破片などから、この古墳が作られた年代は、今から約1600年前の5世紀はじめと言われています。



ポケットファームどきどき



「自然、農業、食べ物」をテーマにした農業体験型レジャー施設。専門アドバイザーの指導のもとに栽培から収穫まで、農業を丸ごと体験できる体験農園、手作りウィナーや手作り豆腐などを教えてくれる体験教室をはじめ、広場や特産品の直売所などがあります。
【電話】029-240-7777

小幡北山埴輪製作遺跡(国指定史跡)

5世紀から6世紀の埴輪工場の跡です。古くから良質の粘土の採れる土地として知られ、材料の粘土を掘った跡、埴輪の形を作ったり、保管していた建物の跡、埴輪を焼いた釜の跡が見つっています。なかでも、釜の数は59基と全国で一番多く、平成4年(1992)に国の指定遺跡になりました。



勘十郎堀跡(町指定史跡)

運河の名として残る松波勘十郎は、藩政改革の請負人として水戸藩に呼び寄せられ、宝永の改革を一任された男です。その中心が、「紅葉運河」と「大貫運河」の2本の工事でした。紅葉運河は、涸沼西岸の海老沢から北浦にそそぐ巴川流域の紅葉(旧鉾田町)に至る約10キロメートル。大貫運河は大貫(大洗町)から涸沼川までの約1キロメートルです。しかし、大地を人力で掘り下げる紅葉運河の大工事は領民たちを苦しめ、やがて一揆に発展し、改革は宝永6年(1709)1月中止となりました。



木村家住宅(町指定建造物)

木村家住宅は、江戸時代長岡宿の脇本陣で、問屋(人や荷輸送)や庄屋を勤めていました。脇本陣は、大小名などが休泊した本陣の予備にあたる宿舎で、街道宿駅に設けられていました。当家は、安政4年(1857)の長岡宿の大火により消失、現在の建物はその後建設されたもので、改築はなく、カンナによる仕上げ、草葺きの屋根になっています。こうした脇本陣は県内の宿場建築でも現存しているものが少なく希少価値があります。

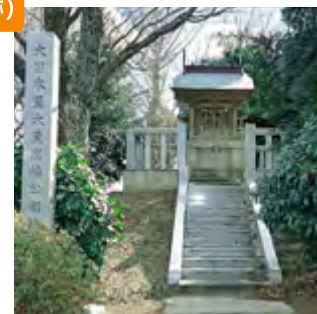


水戸浪士の毛塚(町指定史跡)

徳川幕府の老老「井伊直弼」の動きに反対した多数の水戸藩士は襲撃を企て、長岡の地に屯集しました。そのうち、高橋多一郎17人が浪士となり老老襲撃の武芸に励みました。そして江戸へ向かうとき、髪を切り、決意の証として屯集地付近に埋め成功を祈ったのです。万延元年(1860)3月3日、水戸浪士等ら井伊大老を桜田門外において狙い討ちしました。後に、長岡の住民は髪を字・天徳寺に移して、塚と社を建て楠公社と呼ぶようになりました。大正5年(1916)4月には、長岡青年会の発起により「桜田烈士記念碑」が建てられました。

大戸の桜(天然記念物)

水戸黄門で知られる光圀公も、観賞したと伝えられる大戸の桜。樹齢約500年のシロヤマザクラの巨木で、大正時代のはじめ頃には枝が大きくはり出し、その広さは300坪(1000m²)もあったと言われています。昭和7年(1932年)7月23日に、国の天然記念物に指定されました。



小幡城跡(町指定史跡)



小幡城は、三方を水田に囲まれ、西に広がる舌の形をした台地に築かれた、中世の城です。この城を築いた人物「小幡氏」については、鳥羽田氏や海老沢氏と同じ一族であったと考えられています。複雑に入りくんだ郭や変形武者走り、櫓(やぐら)跡、折など、さまざまな工夫がみられます。本丸に残る井戸には、落城の時に金の鳥を抱いたお嬢様が身を投げたという悲しい伝説が残っています。